

# 地域への責任を自覚し、 世界に発信する 教育・研究拠点をめざして

学長あいさつ

Message from the President



秋田大学は、地域と共に発展し地域と共に歩むという基本原則のもとに、北東北の教育研究の拠点として、有為な若者を育成し多様で独自性豊かな成果を世界に発信することをめざしております。これについて、昨年9月新たに「教育」「研究」「社会貢献」「国際化」それに「経営」の5つの柱からなるアクションプラン（「秋田大学吉村プラン」）が策定され、着実に実行に移されています。

私は今日、グローバル化に加え世界同時不況の波のなかで地方が著しく疲弊衰退する状況を見るにつけ、国立大学法人が「社会の要請に応える自律的な知の経営体」として、その持てる人的知的資源を通じて地域創成にも積極的な役割を果たすべきであると考えます。大学の機能として強調される社会貢献についても、そのような見地から捉えています。

また私は、激変する時代の明日を担う若者たちが自らの思考と行動において価値創造的であることを願っています。「環境」と「共生」を本学のスローガンに掲げて5年が過ぎましたが、この言葉は現代を生きるうえでの普遍的な指針として意義を増しつつあります。それは決して月並みではなく、現代人の思考を根底において規定するものだと思います。今日もはや「環境倫理」への視点を抜きにした思考は、表層的であると言わざるをえません。本学は教育文化、医、それに工学資源の三学部から構成されていますが、それぞれが地域・社会の持続的発展に必須の役割を負う存在です。三学部にはこれまでも誇るに足る実績が積み重ねられていますが、私はそうした実績をさらに揺るぎないものにしてまいります。

秋田大学の今後を以上のように展望するとき、たとえば本学附属学校園における「エコ教育」の充実、有限な資源再利用を含む資源学の伝統の再生、さらに地域医療にたずさわる医師の発掘などは、ぜひとも取り組むべき課題であるように思えます。

地域に根ざし地域の羅針盤となって、秋田大学は一層活発な活動を展開してまいります。

国立大学法人秋田大学長 吉村 昇

歴代学長

劔木 亨弘\* 昭24.5.31～昭24.7.30  
池田 謙三\* 昭24.7.31～昭25.5.5  
佐野 秀之助 昭25.5.6～昭30.12.24  
五十嵐 勇\* 昭30.12.25～昭31.2.29  
渡邊 萬次郎 昭31.3.1～昭41.2.28

伊藤 泰一 昭41.3.1～昭44.6.9  
藤島 主殿\* 昭44.6.10～昭46.2.22  
渡邊 武男 昭46.2.23～昭51.2.22  
九嶋 勝司 昭51.2.23～昭56.2.22  
梅津 良之 昭56.2.23～昭61.2.22

渡部 美種 昭61.2.23～平3.2.22  
新野 直吉 平3.2.23～平8.2.22  
徳田 弘 平8.2.23～平13.2.22  
三浦 亮 平13.2.23～平20.3.31  
吉村 昇 平20.4.1～

\*は、事務取扱